

文化遺産総合活用推進事業 実施計画

1 都道府県・市区町村名	和歌山県	2 補助事業の種類	地域文化遺産活性化
3 実施計画の名称	和歌山県の文化遺産総合活用推進事業		
4 実施計画期間	平成 29 年度 ～ 平成 31 年度		
5 実施計画の概要			
和歌山県域の文化遺産を総合的に活用推進するため、下記の2事業を行う。			
①和歌山県ヘリテージマネージャー育成事業 和歌山県域の文化財の保存・活用に関する専門家（ヘリテージマネージャー）を育成するために、平成28年度に続き、講習会を実施する。 ヘリテージマネージャー先進地域の指導者及び（一社）和歌山県建築士会、和歌山県教育委員会、和歌山県文化財センター等と連携して、文化財建造物や伝統的町並みの保存の専門家を招聘し、講義・演習を60時間実施する。このうち講義は座学形式とし、37時間実施し、演習は文化財修復現場、伝統的建造物群保存地区等で、調査・所見作成、発表・討論等を23時間実施する。講習受講者は和歌山県内の建築士の受講希望者等とする。 またステップアップ講習として、これまでの講習会の修了者を対象に講義と調査演習を実施する。 1年間のまとめとして本事業の報告書を作成し、関係機関等に配布する。			
②紀の川流域文化遺産総合活用推進事業 古に天皇が紀伊国へ行幸された、和歌山県紀北地方を中心とした「南海道」への観光客の増加を目指す。			
6 実施体制			
①は和歌山県ヘリテージマネージャー育成事業実行委員会を組織し、和歌山県教育委員会文化遺産課の指導・協力を得て実施する。 ②は紀の川流域文化遺産活用地域活性化協議会を組織し、和歌山県観光振興課が全体の企画・調整や各補助事業に係る指導等を行う。			
7 実施計画における目標と期待される効果		別紙①のとおり	
8 補助事業の概要	(1) 補助金額	～平成28年度交付決定額： 16,139 千円	平成29年度申請額： 5,383 千円
	(2) 実施事業の概要	別紙②のとおり	
9 その他計画実施により想定される効果（定性的な効果を記載）			
①については、ヘリテージマネージャー養成講習会を実施することにより、ヘリテージマネージャー講習修了者が、地域の歴史文化遺産を広く発掘し、保全していく活動に関わることができる環境整備を進めていくことができる。登録文化財の発掘から登録までの作業、地域の文化財の分布調査・詳細調査、歴史的建造物を活用した町づくりの参画などを進め、これにより和歌山県内の文化財保護と活用が大きく進展し、地域を活性化させていく。 ②について、平成25年度から紀の川流域の道や文化遺産の調査研究、講演会、シンポジウム等を通して、普及啓発を行い、これまでの集大成としてガイドブック「南海道を歩く」を作成した。 今後は、ガイドブックを活用し、広く南海道の素晴らしさをPRすることにより、次世代への継承とともに、地域の活性化が期待できる。さらに、SNSを活用した情報発信を行うことにより、新たな層への訴求も期待できる。			
10 その他事業（自主財源、民間団体、他省庁等からの補助（支援）を予定している事業など）			
事業概要：			
事業概要：			
事業概要：			
11 「歴史文化基本構想」の策定や「歴史的風致維持向上計画」の作成・認定に向けた計画の見込等			
和歌山県としては「歴史文化基本構想」や「歴史的風致維持向上計画」の策定はしていない。 <参考> ・歴史文化基本構想については、県内市町村では策定されていない。（現在、策定を促しているところである。） ・歴史的風致維持向上計画については、湯浅町、広川町が認定を受けている。			
12 担当部局			
地方公共団体 担当部局課	①は和歌山県教育委員会生涯学習局文化遺産課、②は和歌山県商工労働部観光局観光振興課		

7 実施計画における目標と期待される効果 別紙

目標区分 1 :	地域の文化資源を活用した集客・交流					
評価指標区分 1 :	地域の文化遺産への来場者数					(具体的な指標は次のとおり)
具体的な指標 1 :	和歌山市、岩出市、紀の川市、かつらぎ町、九度山町、橋本市の観光客の増加			関連事業 :	②、③、④、⑤、⑥、⑦	
目標値 1 :	平成 29 年度	13,000 千人	⇒	平成 31 年度	18,405 千人	
設定根拠 1 :	平成 27 年観光客動態調査報告書での約12,270,448人から平成 31 年度18,405,000人 (伸び率1.5倍) と設定					
進捗状況 1 :	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 年度	平成 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	
千人	千人	千人	千人	千人	千人	
目標区分 2 :	地域の文化資源を核としたコミュニティの再生・活性化					
評価指標区分 2 :	地域の文化遺産を活用した取組数 (本事業の取組を除く)					(具体的な指標は次のとおり)
具体的な指標 2 :	登録文化財等の公開、伝建地区建物建物特別公開			関連事業 :	①	
目標値 2 :	平成 28 年度	0 (件)	⇒	平成 31 年度	10 (件)	
設定根拠 2 :	登録文化財新規登録の登録見込みと伝建地区内保存修理件数					
進捗状況 2 :	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 年度	平成 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	
(件)	(件)	(件)	(件)	(件)	(件)	

事業④：	道・歴史・文化トークとワークショップ開催事業	実施団体：	紀の川流域文化遺産活用地域活性化協議会		
事業区分：	普及啓発	事業期間：	平成 29 年度 ~ 平成 31 年度		
事業概要：	道・歴史・文化トークとワークショップを開催し、地域の特性や地域にある人の繋がりを活かすとともに、伝統食などを一緒に作って食べながら、その地域の歴史等を語り合い、地域活性化の問題を考える。				
評価指標区分：	・その他	参加者の理解度・価値観（追跡アンケート調査）			
具体的な指標：	文化財のある施設等を訪問したまたは歴史文化イベントに参加した回数（延べ日数）				
目標値：	平成 29 年度	20 回	⇒ 平成 31 年度 30 回		
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率				
平成 年度	平成 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度
回	回	回	回	回	回
事業⑤：	シンポジウム開催事業	実施団体：	紀の川流域文化遺産活用地域活性化協議会		
事業区分：	普及啓発	事業期間：	平成 29 年度 ~ 平成 31 年度		
事業概要：	「ウォークで広げる地域活性化」をテーマとした、シンポジウムを開催する。				
評価指標区分：	・その他	参加者の理解度・価値観（追跡アンケート調査）			
具体的な指標：	文化財のある施設等を訪問したまたは歴史文化イベントに参加した回数（延べ日数）				
目標値：	平成 29 年度	20 回	⇒ 平成 31 年度 30 回		
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率				
平成 年度	平成 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度
回	回	回	回	回	回
事業⑥：	歴史街道ウォーク開催事業	実施団体：	紀の川流域文化遺産活用地域活性化協議会		
事業区分：	普及啓発	事業期間：	平成 29 年度 ~ 平成 31 年度		
事業概要：	ウォークイベントを開催し、参加者の調査報告を元に分析して成果を取りまとめる。その成果をもとに「南海道を歩く」コンテンツの作成に活用する。				
評価指標区分：	・その他	参加者の理解度・価値観（追跡アンケート調査）			
具体的な指標：	文化財のある施設等を訪問したまたは歴史文化イベントに参加した回数（延べ日数）				
目標値：	平成 29 年度	50 回	⇒ 平成 31 年度 100 回		
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率				
平成 年度	平成 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度
回	回	回	回	回	回

事業⑦：	歴史探訪ウォーク（小中高および保護者）開催事業	実施団体：	紀の川流域文化遺産活用地域活性化協議会			
事業区分：	普及啓発	事業期間：	平成 29 年度	～	平成 31 年度	
事業概要：	ウォークイベントを開催し、参加者の調査報告を元に分析して成果を取りまとめる。その成果をもとに「南海道を歩く」コンテンツの作成に活用する。					
評価指標区分：	・その他					参加者の理解度・価値観（追跡アンケート調査）
具体的な指標：	文化財のある施設等を訪問したまたは歴史文化イベントに参加した回数（延べ日数）					
目標値：	平成 29 年度	10 回	⇒	平成 31 年度	20 回	
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 年度	平成 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	
回	回	回	回	回	回	